

# 生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 82

## 今月のテーマ ローンという金融商品の利用を考える

近年、お金を借りる手段は多様化し、随分と利用しやすくなった。それはそれはいい事だ…。そうかな!? 世には、借り易いローンと借り難いものがある。当然借り易いローンの方が便利だろう…。そうかな!? ネットバンクも多くなり、銀行に行かずとも家に居ながらローンの申し込みが出来てしまう時代だ。一見、スピーディーで簡単で合理的なように見えるが、資産を運用する商品同様、いやそれ以上の注意が必要だ。一方、預金金利はというと、大手都市銀行の普通預金にいたっては0.001%(2016年3月1日現在)で、100万円を1年間預けても10円の利子しかつかない。もはや利子なんて代物ではない、情けない状況だ。意外にも、貯まったものは減らしたくないと、高額な商品はローンで購入する方も少なくない。利子を生まない預貯金がそのまま、「便利だから」とカードローンやリボ払いを利用すると、その金利たるや、15.0%を超えるものもあるから驚きだ。

100万円の商品を3年間、15.0%の利息で返済すると、24万8千円程の利息を負担することになる。かたや普通預金の方は100万を預けて1年間10円、3年預けて30円、さらに税引き後で23円也の利子を受けとることとなる。“23円の利子の受取”と、“248,000円の利息の支払い”、さて貴方はどっち…!?

カードローン利用者の中には、その利率を知らないまま利用している方も少なくない。金融機関が多様化し、それに伴って借りる金融商品も様々になってきた。それらの情報は巷に溢れ、スマホなどで簡単に入手できるようにもなった。一見、この便利そうなのは、私たちの生活を本当に豊かにしてくれているのだろうか…?

何気なしに使っている“借りる金融商品”は知らず知らずのうちに、私たちのふところを虫食んでいるのかもしれない。大きな穴が開いてしまう前に、早めの対策が必要だ。



### 金利を比較する

ローンを組む時に先ず目にするのが表面金利である。いわゆる適用となる金利だ。ところが、金融機関によって異なるものの、これとは別に保証料や事務手数料、団体信用生命保険料(住宅ローンなど)などがかかる場合がある。これは、適用金利に上乗せになる場合や、保証料とは表現されていないまでも既に組み込まれているものもある。保証料を別枠で負担する場合をたどると言うなら、消費税の内税と外税との違いと言えれば分かり易いだろうか…。安いと思って購入したのに税金を加えてみたら逆に高かったなんてことになりかねない。

表面金利に対して実質金利なる表現があるが、保証料などの諸々を加えてトータルで支払う金額を元に表すのが実質金利だ。要するに、正確な判断・選択をするには、当然に実質金利でなければならない。

### 人によって違う金利

適用となる金利や保証料は、それぞれに違っていることをご存じだろうか? その幅は、金融機関やローンの種類によっても異なるが、実に大きな落差がある。某、消費者金融系の金利幅は3.0%~18.0%とあった。これで、100万円を3年(36回)元利均等払いで組むと、  
 毎月返済額…29081円~36152円  
 支払総額…1046916円~1301472円  
 となる。

では、人によって違う適用金利はどうやって決まるのだろうか? 端的に言うと、このお客様は「間違いないく返してくれるだろう」という信用力によって違うということだ。



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかず)  
 株式会社トータルライフサポート代表取締役  
 ・CFP®ローテッドファイナンシャルプランナー  
 ・1級ファイナンシャルプランニング技能士  
 ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師  
 ・住宅ローンアドバイザー  
 ・金融広報アドバイザー

## 保険と暮らしの相談センター

### 住宅ローンの見直し相談会実施中!!

ひとつでもあてはまる方は、お気軽にご相談ください!!

- 現在の返済額を軽減したい
- 住宅ローンを借りているが、一度も見直したことがない。
- 現在借りている住宅ローンの内容がよくわからない。
- 借換と繰上返済、それぞれの効果を比較したい。

お気軽にご相談ください。

**株式会社 トータルライフサポート**  
 total life support 募集代理店  
 〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22  
 ●営業時間：9:30~19:00 ●休休日：水曜日  
**TEL 018-827-7611**  
**FAX 018-827-7610**  
**URL http://tls-akita.co.jp**



詳細はホームページでもご覧いただけます。

では、「信用力」とはどういうことだろうか？本人（世帯）の年収、勤務先、職種、勤続年数などを始め、金融機関との取引内容（給料振込先、公共料金引落、カードの保有、住宅ローンの有無などの実績）が大きく左右する。この他にも、預金残高や過去の返済実績などを判断して、適用金利や保証料などが決定される。さらに、大手企業で働く人や公務員など、ローン契約者の信用力が高いと判断されれば優遇幅がアップされることもあるようだ。

消費者金融の融資にいたっては、お手軽・便利さをこんな風にも表現している。

- ① 誰にも知られず借りることが出来ます。
- ② WEB上で完結。電話連絡や郵送物もありません。
- ③ 申込から借入まで一切誰とも顔を合わせないで済みます。

こういう、「一見便利な…？カードローン」の利用における金利は、一体、何パーセントになるのだろうか…！

### ●融資の分類と特徴「証書貸付」

融資を受ける商品の種類には様々なものがあるが、大別すると「証書貸付」と「カードローン」とに分けられる。

#### 【証書貸付】

証書貸付は、資金を必要とするときその都度、個別の契約申込書に申込金額、金利、返済方法、資金使途（購入商品など）を記入し申込むものだ。私とご同輩の年代の方にしてみれば、馴染みのある一般的なローンだろう。

一般消費者が受ける融資で、証書貸し付けをさらに分けると、「目的別ローン」と「フリーローン」とに分けられる。

#### 【目的別ローン】

目的別ローンは、使いみちがはっきりしているもので、車を買うための「マイカーローン」、子供の進学費用としても「教育ローン」などがあり、貸す方にしてみれば、目的が何のためかはっきりしているの、比較的低い金利が設定されている。ある意味では、健全な融資と言えるかもしれない。

#### 【フリーローン】

フリーローンは、目的別ローンのような厳格な資金使途は求められない。しかし、何に使っても自由ということではなく、借金返済などの使途は対象外としているのが一般的だ。制約が低い分、目的別ローンと比較しても金利は高めに設定されている。

### ●融資の分類と特徴「カードローン」

「証書貸付」は、その都度、申し込み手続きが必要なのに対し、「カードローン」は枠（極度額）を決めて契約すると、いちいち申込や契約書などを作らなくても枠内であれば、いつでも自由に借りられるというものだ。実際に借りる方法は発行されたカードで、ATMやCD（現金自動貸出機）で簡単にできてしまう。簡単便利で、資金使途も問われないが、枠とされる借入限度額は比較的少く、金利は証書貸付よりも高めに設定されている。

クレジットカードに設定されたキャッシングもこの形態にあたるもので、毎月の支払方法は、殆どが毎月一定の、いわゆるリボ払い（リボルビング方式）による返済方法を取っている。もちろん資金使途は問われないのでストレスなく利用できる。なんと便利なローンなことか…？

### ●融資の分類と特徴「クレジット」

クレジットというと真つ先に思い浮かぶのが、商品を購入する際の分割支払契約だ。クレジットは大きく分けて、「ショッピングクレジット」と「クレジットカード」に分けられる。

#### 【ショッピングクレジット】

電化製品やパソコン、またマイカー購入のオートローンなどの殆どが、このショッピングクレジットにあたる。その都度、申し込みが必要な点では「証書貸付」と同じように思えるかもしれないが意味合いは異なる。

具体的には、先の「証書貸付」のように直接お金を借りるのではなく、その商品だけのクレジットを組む形となり、融資する金額はその商品を販売する加盟店に払われる（立替える形。あとは、商品代金に金利（分割手数料）を加えた金額を、毎月分割で支払っていくシステムだ。

金利計算は、「アドオン方式」といって、残金に手数料率を掛けて算出する。その手数料を残金に加えて、その合計を回数で割る形で毎月の支払額を計算するものだ。なんだかややこしいが、一般的な元利均等払いと比較すると、利息の負担額（実質金利）は高くなってしまふことに注意が必要だ。

#### 【クレジットカード（ショッピング）】

さて、今度は「クレジットカード」（VISAやJCBなど）だが、先の「ショッピングクレジット」のように、商品購入の都度、契約書を作ったり、契約確認をする必要はない。「クレジットカード」は、カード会社に入会申し込みをして、審査が通ればカードが発行される。その後は、いちいちクレジットを申込みする必要はなく、限度額内であれば、いつでもサインひとつで自由に買い物ができるというものだ。サインだけで欲しい物が手に入るなんて、なんて素敵な仕組みなのでしょう…？

これも「ショッピングクレジット」と同様に直接お金を借りるのではなく、クレジット会社が加盟店にその商品代金を支払う形（立て替える）だ。支払方法は、「回数指定払い」と毎月一定の支払コース（金額）を選ぶ「リボルビング方式」とがある。

【回数指定払い】と「リボ払い」の違い  
回数指定払いは、商品の購入の都度、返済金額が重なってしまふため、月によってはかなりの支払額になったりするが、購入商品の返済回数や金利ははっきりしているため、それぞれの商品が利息を含めて、いくらで買ったかが明確となる。反面、「リボルビング方式」は、重ね買いなどをして、毎月の支払いは一定であるため、返済計画が立てやすいように見える。しかし、重ね買いなどをした場合には、それぞれの購入商品が何回払いになるのか、金利はいくらになるのか、元金の展開計算などをしなければ分らない。言い換えれば、訳が分からなくなってしまう。

どちらが良いか？一長一短であるが、安易な分割はしないなどの節度を持った使い分けが出来れば、非常に便利なものでもある。

ちなみに、吾輩の利用は回数指定（1回）のみであり、ネット上での家計簿代わりにもなっているし、ポイントもそこそこ活用できている。リボ払いは利用したことは無いし、これから利用するつもりもない。ましてや、「キャッシング」の利用などは、金利の水準から見てもそととするし、便利さだけの安易な利用は控えるべきだ。「キャッシング」を言い換えれば「カードローン」※なのである。※前段のカードローンの説明を参照してください。

### ●お金の借り方を考える

これらの事から、簡単・便利・手軽で、かつ低金利で融資を受けられる都合の良いものは存在しないということだ。健全な家計の人が健全な目的のため、手間暇をかけ、一定の手続き審査を経て受ける融資が最も金利が低いと言える。

汗して稼いだお金が、利息で消えていく口入を考えると、ローンそのものの利用の仕方を、改めて考えなければならぬ。

来月号は、融資を受ける際の事前審査について考えてみよう。殆どの場合個人信用情報の照会をもとに判断されるが、この「個人信用情報」の正体が何者であるかということ、借りることについて改めて考えてみよう。